

私の意見「田中俊一 NRA 元委員長のインタビュー記事 ～まるで反原発派の主張のごとく内容～」

2019.11.21 碓本 岩男

1、まえがき

雑誌「選択」の11月号に原子力規制委員会（NRA）の前委員長である田中俊一氏のインタビュー記事「日本の原発はこのまま『消滅』へ」が掲載されている。この記事での田中氏の発言内容は、NRA 前委員長の発言とは思えず、まるで反原発派の主張のような内容である。

インタビュー記事であり、「選択」の編集者が、田中氏の発言を恣意的に要約している可能性はあるが、掲載しているのであるから、田中氏の真意は記事の内容通りのはずである。

そこで、なぜ反原発派の主張のようであるかを具体的に示し、田中氏の思い込み、間違いを糾すことにする。

なお、田中氏及びNRA、原子力規制庁の原子力規制行政の酷さは、NRA 発足当時から多くの識者に指摘されており（注1）、今回の田中氏の発言も、筆者にとっては驚くものではない。

2、田中氏の発言と嘘の指摘

<原発はフェードアウト>

関電幹部の元助役からの金品受領問題を問われ、田中氏は「原子力業界が姿勢を徹底的に正さなければ、日本の原子力に先はない。残念ながら原子力政策の見直しもされないままなので、この国の原発はフェードアウトする道を歩んでいると眺めている」と語っている。

まず、関電幹部の金品受領問題の本質は、どのマスコミもまったく触れていないが、地元了解という二重規制の歪である。国に正式に認可された原発であっても、法的には何の拘束力がない地元了解が得られなければ原発の建設も、運転も、再稼働もできないのである。もとより、金品受領を容認するものではないが、電力は、地元有力者には、どんなに無体なことであっても逆らい難いのが現実である。

田中氏は原子力業界を批判しているが、本来は、原子力（規制）行政に関わった者として、このような原子力規制、行政の歪を批判し、質すように提言すべきなのである。

また、日本の国情（実質的に無資源国、エネルギー自給率8%、島国、工業立国など）、世界情勢（人口増、エネルギー使用量増、資源争奪、地球温暖化等）を踏まえれば、化石、核（原子力）、再生可能エネルギーの3種類しかない一次エネルギーの全てが日本、世界にとって重要なことは自明であり、日本が核（原子力）エネルギーを放棄するなどあり得ないことは、科学（技術）者であれば、容易に理解できることである。

それを、原発はフェードアウトする道を歩んでいると発言しているのであるから、意図的に読者を、反原発派の主張同様に、反（脱）原発に導こうとしている発言内容なのである。

<原子力政策>

原子力政策の間違いを問われ、「日本の原子力政策は嘘だらけでここまでやってきた。結果論を含め本当に嘘が多い。最大の問題はいまだに核燃料サイクルに拘泥していること。再処理で一千年、二千年分の資源を確保するという罫に囚われたままである。一千年後の世界がどうなっているかなんて誰にもわからない。技術的にもサイクルが商用レベルで実用化できる可能性はなく、現に米国、英国、フランスが断念している」と語っている。

まず、エネルギー問題は、国の存亡に直接関わる最重要問題の一つであり、長期的視野で将来を見据えて考えていくべき問題である。ウラン資源については化石資源と同様、枯渇の問題があり^(注2)、そして軽水炉燃料として使用している U235 は天然ウランの僅か 0.7% しかなく、使用済み燃料の 95% 以上が再使用できるのであるから、無資源国、エネ自給率 8% の日本が核燃料サイクルを進める政策を採るのも当たり前のことである。

軽水炉の核燃料サイクル（再処理技術、MOX 燃料製造技術）は英、仏、米、露、ベルギー、ドイツ、インド、中国、日本で実用化された技術であり、仏、露、インド、中国では今も再処理工場を運転中である。英国でも 2018 年までは再処理工場を稼働しており、英、仏は商業レベルで実用化していたのである。

また、原子力政策は嘘だらけと言っているが、嘘という具体的内容もその根拠も示さないうで決めつけるのは反原発派が行う印象操作と同じなのである。仏が断念したということこそが嘘であり、英国も再処理工場を停止したのは、断念したのではなく、北海油田がある英国のエネルギー事情による原発政策の変遷、商業用の海外再処理案件の減少という理由により使命を終えたのである。

<核燃料サイクルと高速炉>

日本が核燃料サイクル路線を放棄しないことを問われ、「数千年のエネルギー資源を確保できるという嘘を言い続けたからだ。日本の原発はそうした嘘で世論を誤魔化しながらやるという風土があった。そこにつけ込まれて、今回のように、原発マネーを狙う汚い人間が集まってくる原因にもなった。今のままでは、今後もまた似たようなことが起こる可能性がある」と語っている。

燃料に含まれている U238 が、原子炉の中で中性子吸収して核分裂性の Pu239 に核変換する。これを再処理で取り出して燃料を製造し、この燃料を使用するという核燃料サイクル（軽水炉、高速炉）で数千年のエネルギー資源が確保できることは科学的事実であって、これを嘘と言っている田中氏の発言が嘘なのである。「もんじゅ」を法的にも技術的にも根拠が無いまま廃炉に追い込んだのも田中氏及び NRA の事実誤認が原因なのである^(注3)。

核燃料サイクルが商用レベルで実用化できる可能性はないという嘘（前述の通り、英、仏は再処理工場を商用レベルで実用化し、高速炉は原型炉レベルで運転を完了しており、ロシアは実証炉レベルの高速炉を運転中である）を前提に、更に嘘を重ねているのである。嘘を前提として嘘を重ねるのも、正に反原発派の主張と同じなのである。

また、世間には、残念ながら公共事業や、ビッグプロジェクトなど、金のあるところに群がる汚い人間はいるのであって、原発に限ったことではないのである。原発だけが特殊のような印象操作を行っていることも反原発派の手法と同じなのである。そして、何の具体的な根拠も示さず、今後も似たようなことが起こる可能性がある決めつけるのも反原発派の主張と同じである。

<再処理工場>

日本が再処理工場を建設していることを問われ、「世界でそんなことをやろうとしているのは日本だけだ。米国をはじめ多くの国は当面、使用済み燃料を乾式容器に入れて原発敷地内に蓄積し、いずれ直接処分する道を目指している。放射性廃棄物の半減期を短縮してから、地下に処分するなどという実現不可能な技術の開発に無駄なコストと時間をかけている国はない。乾式容器で 200 年程度は安全に保管できるのだから、その間に国民の理解が得られるような丁寧な議論をして、処分方法を決めるべきである。ただし、その前提として、原子力利用が国民から信頼を得なければならない。そういう意味でも今回の不祥事は、福島事故後から取り組んできた信頼回復のための努力の積み重ねを無に帰するものである」と語っている。

これも、嘘を前提とした発言であり、仏、露、インド、中国は再処理（核燃料サイクル）を進めているのである。また、エネルギー政策はその国の国情に依って異なるのは当然のことであり、世界と一括りするのも間違いであり、世界がどうだから日本はどうすべき、というような問題でもないのである。世界は脱原発に向かっているというような嘘を反原発派は吹聴しているが、田中氏が世界という一括りの言葉を使って嘘を言うのも反原発派と同じである。

また、高速炉（核燃料サイクル）や高エネルギー加速器により放射性廃棄物の半減期を短縮できることも科学的事実であり、田中氏の出身である JAEA（旧原研）や欧米で開発研究が行われている。これを何の科学的根拠も示さずに実現不可能な技術と決めつけるのも反原発派の主張と同じである。科学の推進、技術開発に無駄なコストも時間も無いのであり、例え失敗しても、その失敗経験が成果なのである。

信頼というのは感情論であって、再処理、核燃料サイクルという科学的問題に感情論を持ち込むことも反原発派の手法と同じである。癌で苦しんでいる患者の手術方法の決定は専門家に任せるべきであり、医師に対する国民の信頼性、丁寧な議論などで患者は救えないのである。

<エネルギー問題の議論>

どういった議論が必要かと問われ、「日本が安定して必要な電力を確保するための方策を多面的に議論することである。その上で原発の必要性について国民の判断を求めべきだろう。しかし、政治・行政は本質的な議論から目を背け、センセーショナルな部分ばかりを取り上げるマスコミの責任も重い。今回の関電の問題は犯罪に近い行為だとは思いますが、これを表面的に批判しても意味が無い」と語っている。

まず、日本のエネルギー政策に関しては、これまでも多くの議論がされて来ており、その結果は「エネルギー基本計画」「長期エネルギー需給見通し」で纏められているのである。

田中氏が言う多面的な議論とは何か、議論とは誰が誰とするのかなどの具体的なことは何も示せていないのである。こういう抽象的なことで本質を誤魔化すのは反原発派の主張と同じである。

また、国防問題と同様、国の存亡に直接関わるエネルギー問題を、国民の判断に任せるというのもまったくの間違いであり、原発0を国民投票で決めろと言う反原発派の主張と同じである。

正しい判断をするためには高度に専門的な知識、国情、世界情勢などの広範囲の知識が必要な問題を、国民感情に委ねることは大衆迎合そのものなのである。

なお、マスコミが正しい情報を分かり易く国民に伝えるという使命を放棄し、読者（購買者）、視聴者に迎合したセンセーショナルな記事、番組作りしていることは事実である。ただし、関電問題を表面的に批判しても意味はないと言っている田中氏本人が、関電について、このインタビューで表面的な批判をしているのだから、呆れるばかりである。

<原発産業の今後>

原発産業はどうすべきと問われ、「再稼働した原発を安全に運転することに専念することが基本だ。その上で、実用化できない核燃料サイクル政策を転換し、無駄なコストを削減し、原発を継続して利用するために欠かせない人材の育成や安全性向上のための技術基盤の開発に投資すべきである。今のままでは原子力利用を支える人材がいなくなるが、これまでの嘘を認めたくないため、問題をうやむやにしたままで何も変わらないかもしれない。そうしたもろもろのことを考えると、残念ながら日本の原発は一回なくなるんじゃないかとみている」と語っている。

再稼働した原発を安全に運転することに専念することが基本と言っているが、バックフィットで科学的には過剰ともいえる安全対策まで実施した原発を、適合性審査を行ってきた田中氏に、逆に、どうしたら危険に運転できるかを問いたい。

原発はフェールセーフ、深層防護の思想で設計製作され、多重性、独立性を有した設備を持ち、更にバックアップ設備（電源車、ポンプ車など）を有しており、専念しなくても安全に運転できるようになっているのである。

また、政策の転換は原子力産業が行うのではなく、政府が行うものであり、この問いに

対する回答としての的外れである。

ここでも核燃料サイクルについて言及しているが、既に述べた通り、田中氏の実用化できないと言っていることが嘘なのである。

田中氏が委員長の際に新規制基準適合性審査は半年で終わると発言していたが、これも真っ赤な嘘であったことは既に事実が示している。福島第一原発事故直後に反原発派が危険を煽り恐怖を植え付ける過激な発言を繰り返していたが、事故後 8.5 年以上が過ぎ、反原発派の主張が全て真っ赤な嘘であったことは、科学的事実が示したことと同じである。

日本のエネルギー事情、世界的な CO2 排出量の削減の潮流から、日本で原発が 0 になることはあり得ないことであり、あってはならないことなのである。

本来は原発を安全に推進していくための機関であった NRA の委員長を務めていたにも関わらず、日本のエネルギー事情、国情も考慮することなく、無責任に原発が一回なくなるといようなことを平気で語るのも、反原発派の無責任な主張と同じなのである。

3、まとめ

NRA 及び原子力規制庁の新規制基準適合性審査が遅れに遅れており、このため、日本の巨額（約 20 兆円）な国富が海外に流出し、家庭用、産業用の電気代が上昇し、CO2 排出量の増加も起こったのである。これを招いた責任者が NRA 委員長であった田中氏である。

NRA の委員長代理であった島崎邦彦氏は、原発訴訟で、反原発派側の証人となり、科学的には間違いであった^(注4)ことが明確になっていることを証言した。

東日本大震災の津波によって起きた福島第一原発の事故で、当時の政府もマスコミも国民も冷静さを失い、原子力、地震の本当の専門家は御用学者などというレッテル貼りで排除された。このため、NRA の委員も国会承認なく、当時の野田総理の独断で決まってしまう、二流あるいは似非専門家、しかも反原発活動をしている学者が有識者会合のメンバーとなってしまった。

再稼働が遅れている主要因は、電力会社に活断層では無いことを証明しろという悪魔の証明を求めている非科学的な NRA の対応なのである。

この非科学的な対応をしているのは、今回の田中氏の発言、島崎氏の行動などで分かるように、NRA が三条委員会という権力を背景に、実質的には反原発活動をしているからと受け取れるのである。

実質的に無資源国で、工業立国、技術立国でしか生きていけない国の日本で、NRA という非科学的組織が今もそのまま放置されていることは、日本という国の不幸であり、世界に対して恥ずかしいことなのである。

以上

(注1) 以下は筆者がネット検索なので調べた代表的なものだけであり、全てではないが

40 件以上もある。これまでも、今も、NRA という組織とその対応には、あまりにも多い批判がある。

「敦賀原発、廃炉を早まるな - 原子力規制委員会の危うい『やる気』を批判する」
石井孝明、BLOGOS、2012.12.13

「原子力規制委員会は『活断層』判断の再考を」澤田哲生、GEPR、2013.1.15

「『原子力規制』の国際化 - 『規制委員会』の実態と問題解決に向けた提言-」IOJ、
2013.1.22

「原子力規制委員会の活断層評価に思う」GEPR、2013.2.13

「規制委の権威を損なう島崎・有識者会合の非常識」IOJ、2013.4.22

「総合的リスク低減が原子力規制の目的 - 規制委員会の誤った活動を憂う」岡本孝
司、GEPR、2013.4.22

「原発規制 練り直す必要 福島教訓生かさず」澤 昭裕、読売新聞 論壇、
2013.4.25

「非科学的な原子力規制委員会の行動を憂う - 不公正を許してはならない」森本紀
行、GEPR、2013.5.13

「原電・敦賀発電所の断層に関する原子力規制委・有識者会合の報告書について」
山口彰、伊藤洋、日本エネルギー会議、2013.5.16

「原子力規制委の対応を強く批判・奥村晃史 広島大学大学院教授」JINF、2013.7.19

「民主党が政権に残した『バカの壁』原子力規制委員会」池田信夫、Newsweek、コ
ラム、2014.2.5

「原子力規制委員会によるバックフィット規制の問題点（上）、（中）、（下）」池田信
夫、GEPR、2014.2.24

「原子力規制委員会の見識を疑う - 民意で安全を決めるのか？」松永一郎、GEPR、
2014.3.17

「民間有識者からのメッセージ 原子力発電所の敷地内断層の評価 - 敦賀発電所
-」原子力の安全と利用を促進する会、2014.5

「原子力規制委、独善的な行動を改めよ」吉村元孝、伊藤英二、GEPR、2014.5.26

「敦賀発電所、活断層判定の再考を - 原子力規制委員会へ公開討論会の申し入れ
-」山口篤憲、GEPR、2014.6.16

「原電敦賀 2 号機の破砕帯問題、科学技術的な審議を尽くし検証せよ」奈良林直、
GEPR、2014.9.1

「澤昭裕氏が指摘した原子力規制委問題の本質」日本エネルギー会議、2014.9.3

「<誘導されるマスコミ記者>なぜマスコミは原子力規制委員会と原子力規制庁の
批判をしないのか？」石川和男、BLOGOS、2015.1.7

「2015 年、原子力規制委員会は『科学的・技術的』な集団へ脱皮できるか？」石川
和男、ダイヤモンドオンライン、2015.1.13

『科学的』判断を避ける原子力規制委・規制庁『悪魔の証明』をいつまで求め続けるのか」石川和男、ダイヤモンドオンライン、2015.1.26

「原子力規制委員会の活断層審査の混乱を批判する」石井孝明、GEPR、2015.1.28

「原子力規制委、未熟な運用 一体制と欠陥」石橋忠雄、GEPR、2015.3.30

「これでよいのか、原子力規制委の暴走」櫻井よしこ、JINF、2015.4.16

「原子力規制委に欠ける基本運営原則 一独善は混迷を生む」大野崇、GEPR、2015.4.27

「法的根拠なき原発の停止 一規制庁の奇妙な見解の紹介」石井孝明、GEPR、2015.5.12

「原子力規制委員会の権威向上を期待して（提言）」原子力国民会議、2015.6

「原子力規制委、行政監査の必要性 一独善をただすために」東田八幡、GEPR、2015.7.13

「原発再稼働までに何が起きたか」産経新聞九州総局、日本工業新聞社、2015.8.8

「原子力規制委員会と法治主義」安念潤司、GEPR、2015.9.7

「遅過ぎる原発再稼働の原因を作った原子力規制委の問題」岸博幸、ダイヤモンドオンライン、2015.10.30

「高速増殖炉継続で日本の国益を守れ」櫻井よしこ、櫻井よしこオフィシャルサイト、2015.11.26

「政治の監視が効かない原子力規制行政の“独走”～元委員の要求を異例の特別扱い」石川和男、エディションJP、2016.6.26

『唯我独尊』の原子力規制、正しい形に直そう」石井孝明、日本エネルギー会議、2017.5.19

「全道停電は原子力規制委の知的怠惰が原因」櫻井よしこ、櫻井よしこオフィシャルサイト、2018.9.20

「原子力規制委員会をもっと早く審査してほしい」諸葛宗男、GEPR、2018.3.20

「原発はなぜ再稼働できないのか」池田信夫、GEPR、2018.9.22

「泊原発の再稼働には『判断基準』が必要だ」池田信夫、GEPR、2018.9.26

「迷走する原子力規制委員会」諸葛宗男、池田信夫、GEPR、2019.7.30

「原発、規制委は猛省せよ」櫻井よしこ、産経新聞、2019.10.7

「原子力規制委の法律違反」櫻井よしこ、産経新聞、2019.11.4

(注2) 「ウランは十分あるか？」小野章昌、GEPR、2016.10.25

(注3) 「高速増殖炉『もんじゅ』、必要性は変わらない」碓本岩男、GEPR、2015.9.14

「原子力規制委員会と『もんじゅ』 エネルギー問題に発言する会、私の意見、2015.12.8

「原子力規制委員会と『もんじゅ』（その2）」エネルギー問題に発言する会、私の意見、2015.12.15

「原子力規制委員会による勧告権の濫用は許されない～『もんじゅ』を巡る文科省への勧告は不当～」原子力国民会議ニューズレター第38号、2015.12.18

「もんじゅへの勧告、規制委の判断のおかしさー担える組織はJAEAのみ」碓本岩男、GEPR、2015.12.21

「原子力規制委員会のもんじゅへの勧告、財産権を奪う憲法違反の疑い」東田八幡、GEPR、2015.12.21

「新聞・テレビがまったく報じない『もんじゅ』と『規制委員会』の真実【金子熊夫×奈良林直×櫻井よしこ】 Will WEB版、2015.12.21、（YAHOO ニュース、2015.12.21）

「もんじゅの判定、工学者からの疑問」奈良林直、GEPR、2-16.1.12

「NHK クローズアップ現代 “夢の原子炉” はどこへ～もんじゅ “失格” 勧告の波紋～への異議」エネルギー問題に発言する会、私の意見、2016.1.27

「もんじゅ退場勧告、規制委判断への疑問」河田東海夫、GEPR、2016.2.1

「もんじゅ判定の疑問、規制国際標準を何故守らないのか」河田東海夫、GEPR、2016.3.7

「もんじゅ型、ナトリウム冷却炉の安全性は高い」碓本岩男、GEPR、2016.5.9

「“もんじゅ” 再生に向けた提言ー原子力パラダイムの再構築（もんじゅ編）ー」原子力国民会議、2016.3

「規制委による恣意的とも言える『もんじゅ退場勧告』ー『“もんじゅ” 再生に向けた提言（原子力国民会議）よりー』 IOJ だより第128号、2016.6.29

「知られざるもんじゅの底力、感情論の廃炉が導く技術立国日本の『死』」奈良林直、iRONNA、2016.9.23

「もんじゅの廃炉で誰が一番得をしたか？弱すぎる日本のエネルギー政治」石川和男、iRONNA、2016.9.23

(注4) 「島崎前 NRA 委員長代理の基準地震動過小評価騒動」エネルギー問題に発言する会、私の意見、2016.8.1